

付加価値創造力を高める！

尾島 敏也 (おじま としや／齊藤商事株式会社 代表取締役)

経営者「環境力」大賞受賞後について、私の思いを語らせていただきます。

私は、八百万の神の一つである織姫神社の麓、1300年の歴史と伝統を誇る機業地栃木県足利市に生まれました。

実家は、機業の一工程である整経を群馬県尾島町で営んでおりましたが、一式戦闘機「準」を製造していた中島飛行機があり、太平洋戦争において、壊滅的な状態になり足利に移り住みました。

足利は、奈良時代から織物業で栄え、古くから水道、消防設備も整えられた環境の良い街でした。幼いころに、埼玉県朝霞市に引っ越したのですが、近くには慶應義塾や立教、跡見学園などがあり、緑の多い教育環境の整った街でした。

中学時代から人の役に立つ仕事をしたいとバイトを始め、高校時代は成田闘争に絡んだ全通ぜんていのストで地域郵便が滞っていたので、地元の全地域の速達郵便を引き受けていました。また、友人の怪我がきっかけで始めた新聞配達は、大学卒業まで続け新聞社本社から表彰も受けました。休日は、トラックの運転手のバイトをし、社会人になってから物流がすべての基本であると実感した経験が役に立ちました。

この経験は、金銭だけでなく、雨の日も雪の日も皆が待っているという「使命感」によるものでした。

大学卒業後、繊維最大手の商社に入社し、お金を頂きながら、一般教養から専門知識、マナーと色々と教えていただきました。バブル経済絶頂期でしたので、寝る暇も惜しんで飛び廻り、色々と学べたことは後々の経営や環境問題に役立つこととなりました。

ほどなくしてバブル経済が終焉し、父の会社も不動産投資で債務超過となったため、お世話になった商社を退職し、資金繰りに四苦八苦した胃の痛い毎日の生活になりました。

しかし、仕入先様、お客様、協力工場さん、社員に恵まれ、家族に支えられながら我武者羅に働いた結果、3年で債務超過を解消。徐々に自己資本も積み重ね地域社会の一員となれるようになり、社員とその家族の未来の為に何か継続できる事は無いか、地域社会の為に役立てる事は無いかという「使命感」に基づき、社員と一緒に様々なことを考えました。

そして、ユニフォームを着ていただく人の労働環境、納入する会社の経営環境、それに付随する地域の環境に対して繊維製品卸業におけるQC(クオリティーコントロール)サークルに取り組むことになりました。

それが発展し、ISO(国際標準化機構)の環境活動を管理するための仕組(マネジメントシステム)ISO14001認証を取得しました。

まずは、地域の清掃活動から始め、ロス品、サンプル品の社内ガレージバーゲン売上の全額を地域の社会福祉協議会へ寄付するなど身近なことから始めていきました。

また、環境活動を通して社員の教育にも力を注ぎました。当たり前のことかも知れませんが、謙虚さと礼儀、他社にない発想力と提案力の熱いプライドを持っての営業、「士魂商才」を経営哲学にあげ、「お客様の満足を高め、感動から感謝される」を経営理念として、人に優しい、環境に優しいユニフォーム製品を販売納入させていただきました。

当社の社名は、秋田県雄勝郡院内町(現湯沢市)にある母方の実家、秋田杉の製材所が由来ですが、会社としては社名由来と本業を

掛け合わせ、何か環境に配慮したことができないかと考え、経済産業省、環境省が運用する「J-クレジット」を利用したカーボンオフセット付ユニフォームを販売することにしました。

当初は、お客様になかなか理解されず、低コスト優先で採用されませんでしたでしたが、断られても地道に提案を続けたところ、ある事がきっかけで多く採用されることになりました。2011年3月11日の東日本大震災です。

この震災の復興支援の一環で、東北地方森林組合へのクレジットを利用したユニフォームを提案したところ、かなりの企業様が前向きに検討して下さるようになりました。現在では、当社が納めるユニフォームでは、これがほぼ標準仕様になっております。

SDGsが主流となった中で、2020年には経済産業省より「SDGsカーボンオフセット大賞」を受賞しました。東北地方への、継続したクレジット利用により低炭素社会への実現が評価されたわけです。

そして経営者「環境力」大賞を受賞したことにより、社員一人一人が更にカーボンニュートラルに対する意識を高めていくようになりました。

財閥系企業の新規案件においても、バイオマス（植物）由来の環境配慮型素材を使用したユニフォームを提案し採用されました。素材だけでなく、人間工学に基づき可動域を広め、働きやすく疲れにくい労働環境を考慮した立体裁断のデザインも重視されました。

また以前から社員の現場に対する思いが強かったことから、環境配慮型素材を生産している徳島の紡績メーカー工場に、社員全員で研修に行って参りました。クラボウ徳島工場は、最先端システムを導入し、厳格な品質管理と生産体制の元、生産活動に不可欠なエネルギーや水などの資源を、できる限りリサイ

クルする、「廃棄物ゼロ」を目指す、サステナブル創造拠点です。

また、自然環境を配慮し、地球にやさしい天然素材を使用するなどを考えております。綿（コットン）は、多くのユニフォームで使用されていますが、その原材料である綿花は、中国、アメリカ、インドなど広大な大地を持つ国を中心に栽培するために、綿畑には大量の除草剤や殺虫剤、化学肥料が使用されるのが一般的です。しかし、それが土壌の汚染や働く人の健康被害などの環境汚染を引き起こしてしまいます。当社は、農薬や化学肥料をおおよそ3年以上使用しない農地で、手作業で雑草や害虫を処理する、手間暇をかけたオーガニックコットンを推奨し、販売量を伸ばしています。

このように、人と人との出会い、繋がりを大切にし、圧倒的なコミュニケーション力で差別化を図る。そして、社員一丸となって環境を意識し、高付加価値創造力を高め、お客様の満足から感動へ、そして感動から感謝される企業となっていきたいと思っております。

次から次へと押し寄せる地政学的リスクで、先の読めないVUCA（不確実性が高く将来の予測が困難な状況）の時代を生き抜くために、粘り強く、持続可能な「環境力」を常に意識し、地域社会に貢献できるよう挑戦して参ります。



2023年10月13日 カーボンニュートラルサステナブル最先端技術 クラボウ徳島工場を視察